

清瀬市郷土博物館協議会 令和元年度第1回議事録

日 時 令和元年11月22日（金）午後2時～午後4時

場 所 郷土博物館 講座室

出席者 委 員 岩本重雄、岡田耕輔、小俣洋子、森本昇二、築瀬正子、山我正明
（敬称略）

事務局 坂田教育長、石川教育部長兼館長事務取扱、金子事業係長、
古川主任（学芸員）、中野主事（学芸員）

欠席者 委 員 富田公三（敬称略）

会議の公開・非公開 原則公開

傍聴者 なし

配布資料 資料1 平成31年度事業報告書

資料2 令和元年度事業予定

資料3 令和2年度重点事業概要（案）

特別展「柳瀬川縄文ロマン展」チラシ・図録

- 議 事
- 1 開会
 - 2 委嘱状伝達
 - 3 教育長挨拶
 - 4 正副会長選出
 - 5 議題
 - (1) 平成31年度事業報告について
 - (2) 令和元年度事業予定について
 - (3) その他
 - 6 閉会

【議事要旨】

1. 開会

本協議会の司会進行役は金子事業係長が務める。

2. 委嘱状伝達

委員の任期満了に伴い、令和元年11月1日～令和3年10月31日までの委嘱状の交付を、坂田教育長より執り行う。（前任の委員全員が再任）

3. 教育長挨拶

坂田教育長より挨拶。

(教育長) 協議会についてもいろいろと改革をしていかなければならない。会長をはじめ委員と事務局でしっかり話し合いをしていければと思うが、手元の資料をご覧いただきたい。学校教育において、国語や算数ができなければならないが、それだけではなく、今、資質能力と言われている、人として生きる力を身につけさせていこうという動きになっている。清瀬では学校において「故郷清瀬を誇りとし、持続発展の主体者となる力」「撓やかで強かな心と学び続け、成長し続ける力、生きて働く知識や技能」「未知の状況でも活用できる思考力・判断力・表現力」の4本を柱に育てていこうとなった。丸で囲んであるところが郷土博物館に近いところである。今日午前中、指導課と令和2年度の学校教育課程の打ち合わせを行った。来年度は教育課程の中に、博物館との連携を明記することになった。今、小学3年生はこちらに来て学習をさせていただいているが、それだけではなく、学芸員の方に学校に来ていただいて連携するとか、博物館のホームページを使って学習するとか、様々な方法があると思う。来年度は意図的・計画的に博物館と学校との連携が図られる。また、若手教員、初任者研修のプログラムに清瀬の文化財・名所旧跡を探訪して歩くというようなことを組み込む。その折には是非学芸員の方にご指導をお願いできればと思っている。今まで学校との連携が十分に図れなかったこともあるが、清瀬の文化を担っていく次世代の若者たちだから清瀬の尊さを学んでもらわなければならない。協議会の方々にもご理解・お力添えをいただきたい。

ここで、再任となった各委員挨拶。

(委員) 4月から機会があれば博物館の事業に参加している。少ない人数でよくやっていると思う。もっと力になれることがあれば、もっと市民を巻き込めることがあればと思う。具体的にどうしていけばよいか考えている。より子供を育てるようにするには子供のやってみたいとか、こうするといいのになというものを、つまずいてもいいのでやってほしい。

(委員) 歴史講座を増やしていただいたというのはこちらの意見をひとつ実現していただいたところかと思う。講座の時にお手伝いしてくれる市民も

いるのではないか。学芸員の負担軽減になればと思う。市民とのコラボをこれからしていくという前提で、博物館職員だけでなく、協議会委員もお手伝いさせていただきたい。次年度の事業計画については早い段階で協議会に諮り、委員の意見も反映させていただきたい。

(委員) 要望もあるが、予算や人員の問題もあるので、長く続けていただくには、何かを絞りながら考えてやっていくと良いのではないかと思う。

(委員) 先ほど企画展の会場で、清瀬で出土した土器を見てきたが、こういうものが清瀬にあるんだということを少しでも多くの方に伝えていくということからお手伝いができればと思う。

(委員) 友の会で企画展のボランティアなどとしてこれまでお手伝いさせていただいているが、より博物館が親しまれる存在になるよう、手伝いができればと思う。

(委員) 博物館には頻繁に来ている。皆さんが参加したいと思うようなことをやっていき、回数を増やしていけば良いと思う。

博物館職員の人事異動について報告と挨拶。

4. 正副会長選出

清瀬市郷土博物館条例に基づき、正副会長を選出。選出が決まるまでは石川教育部長が議長を務めた。委員の互選により、引き続き会長に岡田委員が、副会長に築瀬委員が選出された。両委員より就任の挨拶。

ここで、事務局により配布資料と本日の会議の出席者数の確認があり、本日の会議出席者は、委員7名のうち、6名が出席していることから、条例第5条第5項の定足数である過半数を満たしており、本会は成立している旨が伝えられた。

5. 議事（協議経過等）

(1) 平成31年度事業報告について

これより議事進行は岡田会長により執り行われた。

事務局より上記について資料に基づき報告。

(会長) このことについて、質問・意見等はあるか。

(委員) 今は使われなくなってきた清瀬の方言に関する展示はどうか。

(委員) 本はあるが、イントネーションが文字では分からない。友の会で市民の方に方言を話してもらおうというイベントをやったことがある。

(事務局) 参考にさせていただく。ただ方言のみでは内容が弱いので、何かと抱き

合わせで行うなど検討したい。

(委員) うどん作りや宿泊体験などの合間に来てもらい、話してもらうのはどうか。人手の問題もあるだろうから、何かの事業と合わせて行えば負担が減ると思う。

(副会長) 清瀬の昔話を方言で話してもらって録音したのを聞かせるのも良いと思う。

(2) 令和元年度事業予定について

事務局より、上記及び令和2年度の重点事業について資料に基づき報告。

(会長) このことについて、質問・意見等はあるか。

(委員) 令和2年度の事業や予算は決定事項なのか。

(事務局) 予算要求を出しているところである。実施していきたいとは考えているが、必ずしも全て実施できるわけではない。

(委員) ではそれを踏まえて意見を言わせていただく。特別展の中では私としては下宿内山遺跡展を推したい。市制50周年記念の縁日は夏休みに開催すると思うが、今の子供たちは忙しいので、どのように宣伝するかが課題。

(事務局) 時期はお盆の頃を予定している。

(会長) 家族で来てもらえると良い。どこかの地域の盆踊りを招くのも市民とのコラボレーションとしても良い。

(委員) 老人クラブなどに来てもらうのはどうか。

(副会長) 企画展関連事業の中にうちおりの講演会とあるが、どのようなものなのか。

(事務局) 文化庁の文化財調査官を講師としてお招きし、民俗学の見地からうちおりについて解説いただく。重要有形民俗文化財の中でも衣料に関するものは指定例が少ない。この講演を通して市民の方により一層理解していただきたいと思う。

(副会長) 展示の計画はあるのか。

(部長) 現在、計画はない。重要有形民俗文化財になった以上、展示には、温湿度や照明などの条件が大変厳しいものとなる。ギャラリーはその条件を満たしていない。ギャラリー全体を直していくのは膨大な費用がかかるため、例えば一つでも二つでも条件を満たしたガラスのケース、これは大体300万円ほどだが、そのようなものを買って、季節ごとに入れ替えをしていく方法がある。ただ3月にそれを用意するのはできないため、残念ながら今回は講演のみとなった。

(事務局) 同時期開催の企画展「はたおり伝承の会作品展」の関連事業として位置付けている。

(部長) 講師の方は、うちおりの指定時に何度も足を運んでいらっしゃる方なの

で、詳しくお話いただけると思う。

(副会長) 何か目に見えるものがあると良いが。うちおりの中には文化財に指定されていないものもあると聞かすが、それなら展示できるのではないか。

(事務局) 講演の内容は講師の方で検討中である。今年度の展示計画は決まっているため、指定外のものの展示は今後検討していきたい。

(事務局) 講演も実際に何点か出して見せながらお話いただけるか等、未定である。

(副会長) せっかくの清瀬の宝物なので、大事に扱いながらみんなに広げていってほしい。

(会 長) 来年度の歴史講座はどのようなものか。

(事務局) 計画中である。何回やるということは明言できないが、引き続き実施予定である。

(事務局) 毎年度6回が目標である。

(事務局) 講座のネタが毎年6回分できるかどうかというのものもある。そろそろ見極める時期に来ていると思う。質を求めるのか、量を求めるのかというのものもある。歴史講座をやって、皆さんに来ていただけるのは大変ありがたいことで、やりがいもあるのも事実である。ただネタが段々少なくなつて、何年か前にやったことをまたやっていいのか、検討しなくてはならないが、継続して実施する方向で計画している。

(会 長) それについて先ほど申し上げたが、お手伝いすることができればと思う。テーマについても一緒に意見を出しあえたらと思う。

(副会長) 野塩地域の文化財散歩に参加したが、現地で見て説明を聞くだけだと、いつ頃のものでどうやって建てられた塔なのかなど、もっと詳しい話を講座で聞けたら良いという気がする。

(委 員) 講座のテーマは2回繰り返しても良いと思う。飽きない。それに1回では覚えられない。開拓していくことも大事だが繰り返しも良いと思う。学芸員も変わる可能性がある。繰り返し開催し、そこに参加した人が他の人に伝えていくとより多くの方に知っていただくことになる。

(事務局) 地元の歴史をなるべく地元の人に知ってもらいたいということが根底にある。地元の人が地元のことを語っていただくのがベストなので、そのお手伝いをするのが展示であったり講座であったりすると思うので、今後も継続していきたい。

(会 長) 東村山で「子どもガイド」という制度がある。大人が小学生にいろいろ教えて小学生がガイドをやっている。シニアもそうだし子どももそうだが、市民学芸員制度(市民・シニア・子ども)を作り市民募集して市の歴史・文化を伝えることができる人を育てる講座・講習会を実施する。学芸員他が講師となり人を育てるそのような制度ができると良い。

(委 員) 企画展が終わっても見られるような映像を置いてはどうか。また、下宿に森田家を移築保存しているが、遺跡から出土した竪穴住居跡を残して

も良いのではないか。お金のかかることだとは思いますが。

(会 長) 郷土研究会で「清戸道」を取り上げた。できれば清瀬に「清戸道」があったということを知らせる看板を設置してほしい。

(委 員) 市の看板類は何回か更新されているようだが、予算が通り次第だと思う。

(事務局) 「清戸道」は令和3年度以降の特別展等で取り上げたいと考えている。

(委 員) あんなにたくさん立派な土器が清瀬にあったとは思わなかった。財政難とは思いますが是非今後も活用して行ってほしい。企画展ということは終わった後はどうするのか。

(事務局) 元あったところに片づけることになる。

(事務局) 土器については常設展示室で一部展示している。

(委 員) スペースの都合もあるが、同じものをずっとでは飽きてしまうので、定期的に入れ替えをするなどして活用してほしい。

(会 長) 清瀬に住んでいても清瀬のことをよく知らない市民が多い。そういう意味では何度も清瀬の良いところを言わないと分からないので、是非やっていってもらいたい。

(3) その他

(会 長) その他について、何か質問・意見等はあるか。

(部 長) 会長と副会長から以前ご意見いただいて、令和2年度もそうだが次年度の計画予定を決まったことを事後承諾的なるというのは、本来の協議会の主旨からすると、もう少し意見を言う機会があった方がよい意向を頂いている。そこで今回この時期にお出しした。今後は、さらに前段階の時期のご意見をいただくような場を設けた方が良いのかとも考えている。協議会と市は対等でありますので、協働という形で意見を述べていただき進めていきたいと考えている。ただ、そのようにするにはどういう役割分担をするのか。まず最も解決すべき点は、年度で1回の開催では、実現が難しいという点である。委員の皆様の方からも意見をいただきたい。

また、先ほどお話したうちおりについても、重要文化財としての保存活用計画を市として作らなくてはならない時期であると考えている。その計画が策定できて初めて質問をいただいたうちおりの活用方法や保存の在り方を議論し、更にNPOや市民の方たちにうちおりの保存や活用を担っていただくことも可能となると考えている。

(事務局) 友の会の役員を務められていた市民の方より教育基金に1千万円のご寄付をいただいたので併せて報告する。

(会 長) 以前、無償で協議会を開催するのはOKということで皆さんにご了解いただいて開催したことがある。

(委 員) 事故などがあった際に無償では問題になるということではなかったか。

- (部長) あくまでも皆様が自発的に委員全員賛成のもとに返上するのであれば、会議として成立すると考えている。ただそれが常態化して、毎年毎年複数回開催するとなると適切ではないと解されている。
- (会長) 博物館と協議会委員との間の話し合いは必要だと思う。そのため、そのことを前提に集まっていただくことが必要だと思う。
- (委員) 以前、郷土研究会で滝の城の講演会があり、清瀬・下宿との関連で非常に興味深い話だった。参考になればと思う。
- (副会長) 清瀬や博物館により親しみを持ってもらうにはどうすれば良いか考えてみたが、参考に資料をお持ちした。人手と費用の問題があるのでできるかどうか分からないが、博物館と市の催し物等とのコラボができれば良いと思う。例えば、郷土カルタを題材としたスタンプラリーを行ったり、夏休みの自由研究になる勉強会、ひまわりフェスティバルとのコラボ、市民祭りなど。
- (事務局) 市民祭りでは博物館を介してはたおり伝承の会が出店している。
- (副会長) 例えはうちおりを展示するとき、外国の方にも見てもらえるように対応を行ったりするのはどうか。
- (事務局) 将来的に多言語化は検討していきたいと思う。
- (会長) その他ということで、いろいろなご意見が出されたが、協議会として必要なときに集合するという点についてはご理解いただければと思う。博物館の次年度の計画への協議会委員の参加についてはご検討いただきたい。

6. 閉 会

- (会長) 以上で本日予定していた議事についてはすべて終了する。これをもって本日の博物館協議会を閉会する。

7. 特別展「柳瀬川縄文ロマン展」視察

閉会后、中野学芸員の案内で特別展「柳瀬川縄文ロマン展」を視察。